

HEARTの会

人間環境活性化研究会会報 (創刊号) 1995-03-10発行

人間環境活性化研究会
(HEARTの会)

〒107 東京都港区赤坂3-21-12
赤坂ツツ木ビル501

TEL : 03-3586-4183

FAX : 03-3586-4393

— 発会のことば — 代表理事 安立 一郎

HEARTの会の創刊号を発行するに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本会は、人類の未来を守り、人間が生き生きと生存してゆくための環境保全・改善を目的としております。

地球の誕生は約46億年前、そして生物の中でも人類は2百万年前誕生した新参者でございます。地球はこれから4億年から30億年は生存できるはずですが、しかし、環境破壊や高度科学技術の誤応用等によっては、地球に人類及び多くの生物が生存できなくなってしまうかも知れないのです。

ですから、我々は人類生存の環境危機を人智を尽くして克服し、人類の末永い存続を期待し、環境保全・改善にとりこんでいきたいと思っております。

『どんな会にしたいか』

…発足準備委員会の談義から… 北島 道俊

- ◎参加型・相互啓発型の交流を軸として、環境配慮の知恵をまとめ、行動にも繋げられるひと味違った会にしたい。 *盲点や曲解の指摘、重要な見解の提言にも貢献したい。
- *会を大きくし、充分な活動力を早く備えたい。 *しかし、初心忘るべからずが重要だ。
- ◎浪費、大量消費、使い捨て社会、景気優先・環境軽視、人口爆発と飢餓、自然を尊ぶ心の低下、……。早晩、人類および多くの生物の生息環境が危ないという。 *しかし生活に密着した場での危機意識は低い。 *我々自身、自主的になっていない。受け身なのだ。
- ◎生き生きと生きるために、感性を活性化する人間環境の創造も大切な課題だ。
- ◎現実的問題では、クールな目で功罪両面の本質を認識し評価をすることが重要だ。 *問題が起きると、全面的に物質に罪をきせる。人間の自己無規制や使い方が悪かったのに。
- ◎具体的な事業活動では、主軸に全員対象のセミナーや学習会でグローバルな問題に対する理解と認識を計りつつ、意見交換や懇親会など、出会いの時と場をつくりたい。
- ◎さらに、会員の声や意思疎通を大事にする上では会報は是非必要だ。 *経済的でやや機動力のある手作りも出来る体勢を整備したい。
- ◎また、上記のセミナーなどの他に、各層多様な会員間の視点で、本研究会の目的達成に役に立つ、問題点を絞り込んだ主体性のある小研究会を逐次発足させたい。
- ◎会員の支援を得て基盤を確立し、会員各位の知恵・経験・意欲を結集して人間環境活性化への貢献や提言の出来る会にしていきたい。

“H E A R T” - 人間環境活性化研究会
会名の生れた由来と意味について
平山 達

E A R - H E A R - H E A R T - H E - A R T

これは人間環境活性化研究会の英訳の頭文字をとったものであるが、H E A R T (心) という名称が、表裏一体として浮かんで来て生れた訳である。

わかりやすくその思想意味を示してみると

人間…… (Human)	……人生
環境…… (Environment)	……共生
活性化… (Activating)	……再生
研究…… (Research)	……探索
会 …… (Team)	……出会

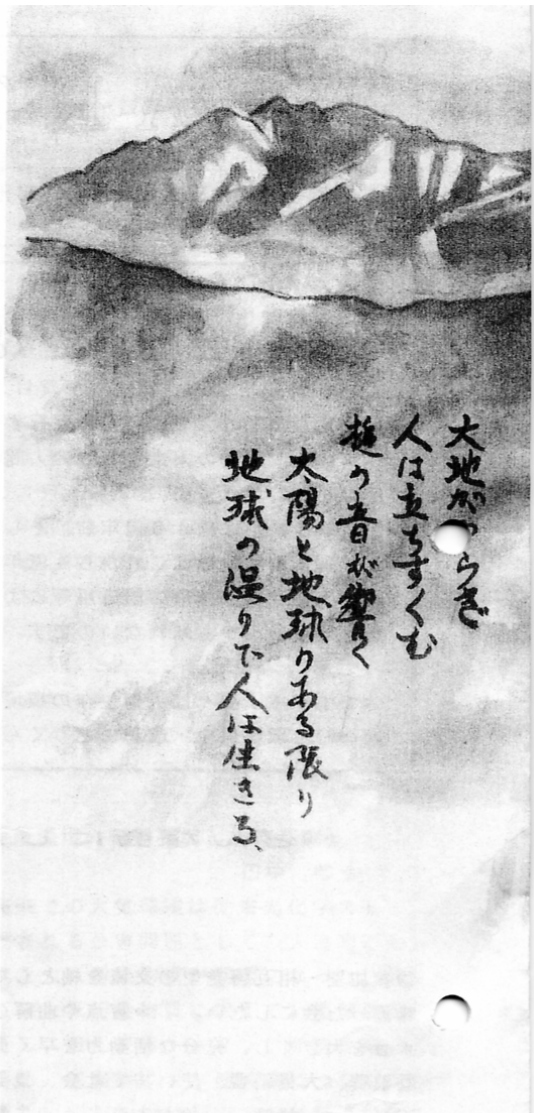
に対応すること、全体として本質に心のあることを銘記すべきと思う。

本来Heartということばは、Ear (耳) → Hear (聞く) から由来したともいわれ、これに“t”が加わり、自己をみつめる、すなわちHeart (心) ということばが生れてきたことを考えると、当会の発生が、同じ志のものがお互いのことばに耳を傾け論じ合い発会し、また心を通じうする方々と共に大切な人間環境問題を考え、これが後世へいささかでも貢献できる芽生えとなればという願望の意味も秘めている。

とくに注目していただきたいのは真中のAであり、Activating (活性化) は各自がそれぞれ生々とせずして人間環境問題の解決はなく、また永遠の人間のいとなみであり、さらにいえば人間の生命の源である。あえて進行形を使っているのもこのためである。

さらに補足するならば、今や人間が生きる場、環境は当然各個人の人生、宇宙、地球で生活する全世界人と共に生を分かち合う共生、そして全体が活気がみなぎるような、そして皆が生まれかわって生命力あふれた再生が望まれるのである。あらゆる生物、自然界に与えられた物質とともに生きているわれわれの人生が、他の物質、生命体とともに共生し、単なるリサイクルでなく真の再生、本来の姿、人間が環境とともに活性化しつつ永遠に生きる喜びを味あわなければならない。

現実的な人間環境問題についての重要性は各機関、数多くの文献資料等で紹介されているが、とくに本会の趣旨を要約しているこの命名との関連において注意をうながしたい点を付け加えるならば、広義に環境問題をとらえ、境界領域との接点で輪を結び、とくに歴史観、未来観に思いをいたし、またあくまで正否不明について中立公正の態度で探索し、



大地がうらさ
人は立ちまわ
旋る音が響く
太陽と地球りある限り
地球の限りで人は生きる



情報交流によって補間し、よい方向へ導く積極的努力を試み、運営も全員が個性を発揮できるよう組織やワーキンググループについても工夫をこらすことを願い、また皆様からも励ましと指導を切に期待し歓迎するものでありたい。

【投稿原稿募集】 会報等を通して、会員間の交流を一層豊かにする為に
会員の皆様の下記原稿を募集いたします。 締切▷4月末日▽（会報No.2、発行後6月中）

◎ 400字以内、原稿には該当する下記の番号と題名・氏名を頭書し、末尾欄外に連絡先
を入れて下さい。（なお原稿はお返し致しません。また会報への掲載、集会での紹介等の
選定など、扱いは本会にご一任願います。予めご了承下さい。）

※募集内容：①自己紹介、②本会への希望・提言、③日常の環境配慮を高めるための提
案、④生産者－消費者の接点領域で考える環境保全・改善・創造、⑤会員の文芸作品。

【第2回セミナーおよび懇親会のご案内】

開催日時：1995年 6月30日（金）
 セミナー 15:00 ~ 17:40
 懇親会 18:00 ~ 20:00
 会場：蔵前工業会館 8F (03)-3571-3151
 (JR新橋駅銀座口より海側50m, 1F東海銀行のあふビル)

A：セミナー

第一講演 『農業残留と食品安全性』

講師：山本 出 氏
 (東京農業大学農芸化学科教授・元日本農薬学会会長)

第二講演 『地下水中の硝酸汚染問題』

講師：熊沢 喜久雄 氏
 (東京大学名誉教授・東京農業大学総合研究所教授)

B：懇親会

相互交流・意見交換の機会として、懇親会を催しますのでは是非併せてご参加下さい。

《参加費用》

会 員 7,000 円 (セミナーのみの方は 3,000円)
 非会員 10,000 円 (セミナーのみの方は 5,000円)
 *参加費用は当日会場にて申し受けます。

《参加申込み方法》

第2回セミナーおよび懇親会申込み、と頭書し、全参加、セミナーのみ参加の区別、会員非会員の区別、電話、住所、氏名を明記して本会宛て葉書にてお申し込み下さい。
 <問い合わせ電話・FAX >

TEL:03-3586-4183, FAX:03-3586-4393

【詰将棋『人』】 (出題) 平山 達

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				金					一
				銀					二
				桂					三
				王					四
			歩		歩				五 持
		飛			角				六
	角					飛	香		七
									八
									九

解答を葉書で本会にお送り下さい。正解者には賞(小)品準備中です。

*締切り：5月10日

【第1回セミナー(3月10日)講演要旨】

『環境エネルギー政策—様々な考え方』

川口 順子

地球環境問題はそれぞれの国、例えばアメリカなど各国の歴史、社会、政治経済の相違が反映しており、エネルギーはじめ各分野の技術開発の関連において、人間生活に大きな話題を投げかけている。そしていまや世界全体の国際的研究開発協力の必要性が重要であることに目覚めつつある。21世紀に向けて環境エネルギー問題をどう進めてゆくかについて様々な考え方があり、その政策についてまたそのステップなどを成るべく平易に、わかりやすく紹介して皆様と共に考えてみたい。

HEARTの会でも、ワーキンググループがつくられ、専門家のみならず、関連境界領域の分野の方、また一般人の希望者の方を含めた小チームによって、啓蒙普及、相互学習さらにはユニークな考え方の提言などを通じて世の中のために役立てたいとのことなので、その一つのきっかけになれば幸である。

『大気環境—自然要因と人為要因』

田中 郁三

地球規模での大気環境は従来光化学スモッグに代表される公害問題として、人為的にもたらされた大気汚染物質が問題になった。最近ではこの大気汚染物質に加えて、地球温暖化を与える二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素等をはじめ、成層圏オゾン層破壊につながるフロン等の物質が地球規模での大気環境の変動に大きくかかわっていることが分って、社会的・経済的に大きなインパクトを与えた。

まずこれらの微量物質の人為的と自然的発生源を正しく知ることが重要である。同時にそれらの消滅過程を明らかにする必要がある。

そこで微量物質の最近の濃度の変動がどのような発生源と消滅過程によっておこっているかの最近の研究を報告し、これらに対する対策等を考えてみよう。また注目されている臭化メチルなどについてもふれる。